

は し が き

TOEICはTest of English for International Communicationの略で知られた資格試験です。同じETS (Educational Testing Service) の開発 / 作成しているTOEFL (Test of English as a Foreign Language) と比較しながらその違いを見ておきましょう。

TOEFLはアメリカやカナダの大学への留学を希望している英語を母国語としない人に対し、授業を理解できるかどうかの英語力の判定に使われます。そのため問題も、教科書や講義、論文等の素材を元に、アカデミックに仕上がっています。そのため、留学希望者でなくても大学などで必要とされる教養英語として受験する人も多いのです。

それに対してTOEICは、日常的な英語のコミュニケーション能力を測定するものです。そのため、街中、レストラン、風景、旅行、買い物等の日常の素材が中心で、受験する国による差異を無くしているのも特徴です。従って、実社会に出て英語を使うおうとする人の基準として、学生の就職の際の資格として、さらには、会社に入ってから能力判定として、色々な角度から利用されています。

本書は、社会人が自習書として使うことを考えているのではなく、大学・短大等で、一年を通じて実力を養成することを目標としています。このため、1～2か月でTOEICの点数を50点上げるといった即席の効果を狙うこともありません。比較的平易な問題から積み上げていって、少しずつレベルを上げていき、実力を養成することを目指しています。即席にテクニックだけを身に付けて100点上昇したとしても、それが将来に繋がらなければ意味がありません。少し遅れて100点上昇して、それが将来も力となって、さらに上昇する。こうした実力を筆者は評価します。

本書を編むにあたって、金星堂編集部の比企めぐみ氏には大変お世話になりました。また、本書の資料整理では国際テストング研究所の平本直美氏にお世話になりました。最後に、資格英語の授業を熱心に聴いてくれた学生諸氏に感謝したいと思います。

2001年 秋

筆 者

TOEICの基礎知識と本書の構成

●スコアはどのように評価されますか？

TOEICは合格や不合格がありません。スコア別に英語の能力を評価するものです。

ListeningとReadingのスコアに分けて点数が出され、それぞれ最高点が495、最低点が5点で、点数は5点刻みで出されます。この二つのスコアの合計がTOEICの点数としていわれるもので、最高990点～最低10点で評価されます。

●話したり書いたりしないのになぜコミュニケーション能力がわかるのですか？

TOEICのスコアと英語のコミュニケーション能力には相関があると言われます。それは、アメリカの試験公共機関ETS (Educational Testing Service) が開発したテストだからです。ETSは、TOEFL (約170か国、80万人以上)に加え、大学入学共通試験SAT、大学院入学共通試験GRE、経営大学院入学試験GMATなどを手掛けているので、過去数十年にわたる資料が豊富なのです。このため、聴く能力の約70%が話す力で、読む能力の約60%が書く能力だとするテストを、国に片寄らず作成できるのです。このため、TOEICの点数が220、470、730、860といったガイドラインをもとに英語のコミュニケーション能力を想定できるのです。(表参照)

●TOEICのテストの特徴は？

TOEICは200問の問題を2時間で解く客観テストです。内容は、大きく2つのセクションからなっていてListening (100問)を45分間で、Reading (100問)を75分間で解答するものです。すべて、マークシートに記入して、途中の休憩もありません。このため、相当の集中力と体力を必要とします。

解答用紙はアメリカのETSへ送られ、コンピュータによる採点、集計、分析が行われます。評価のガイドラインは一定のレベルのため、TOEICのスコアは問題が変わっても、また受験生の母集団が変わっても、受験者個人の英語能力が変化しない限りそう変化しない(+/-25点前後)ようになっています。

●本書の特色は

本書はTESTを4段階に分け、1～5を基礎練習段階、6～10を基礎発展段階、11～15を発展段階、16～20を応用段階としています。TEST 1～5ではPart VIIなどの読解問題は扱っていません。

それは、Reading SectionではPart V, VI, VIIの順に正当率が下がります。ということは、最初のパートの方が易しく、解きやすいといえるでしょう。このため、本書は回を進むにしたがって、次第に後半のパートを増やしています。徐々にステップアップしていきましょう。

問題のタイプは次のようになっています。

Part V 文法 / 語彙問題：短い英文の一部が空欄になっていて、その空欄をうめるのに適切な語句を選ぶ問題です。文法、語彙力両方を試す問題です。

Part VI 誤文訂正問題：短い英文中に下線が4箇所引かれていて、その中から文法語法上誤りのある部分を選ぶ問題です。

Part VII 読解問題：新聞、雑誌広告、通信、掲示、メニューなどを読み、2～4つの設問に答える問題です。